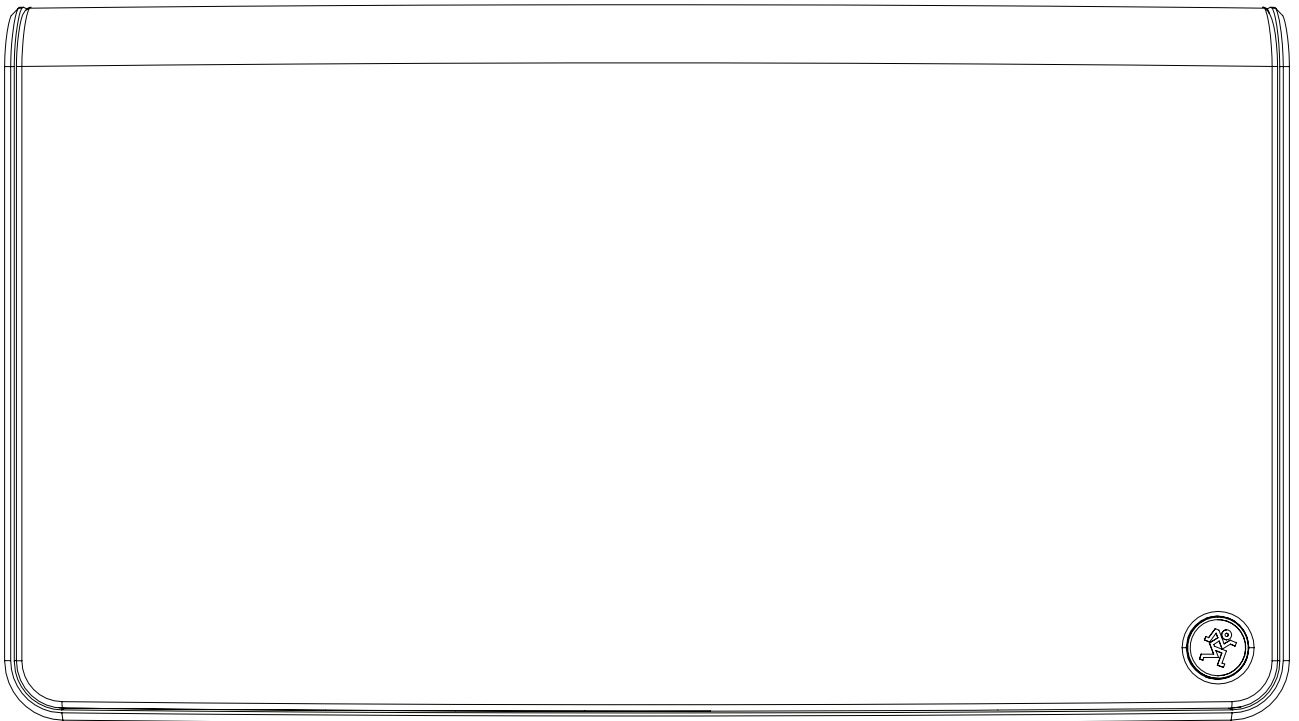




FREEPLAY **LIVE**

日本語オーナーズマニュアル




安全の為に

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

	<p>「必ず守ってください」という強制を表しています。</p>		<p>「絶対にしないでください」という禁止を表しています。</p>
---	---------------------------------	---	-----------------------------------

	<p>警告 この記号は取り扱いを誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。</p>
---	--

- | | |
|--|--|
|  <p>本書を全て読むこと
この製品を設置、使用する前に必ず本書を全てよく読み、本書の内容に従ってください。</p> <p>必ず実行</p> |  <p>大音量で使用しないこと
この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。</p> <p>禁止</p> |
|  <p>専用電源コードは仕様に適合した電源に接続すること
適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。</p> <p>必ず実行</p> |  <p>異臭や異常を感じたら修理を依頼すること
正常に機能しない、電源コードやプラグに異常がある等の場合は、修理をお申し付けください。</p> <p>禁止</p> |
|  <p>水分をかけたり湿気にさらさないこと
この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。また、この製品を雨や霧にさらさないでください。感電や火災、故障の原因になります。</p> <p>禁止</p> |  <p>移動するときはケーブルを全て抜くこと
電源コードや接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないでください。ケーブルを痛めたり、周囲の方が転倒する原因になります。</p> <p>必ず実行</p> |
|  <p>電源コードは安全に配置すること
電源コードをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、電源コードが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っ掛けるような場所に配置しないでください。負傷の原因になります。</p> <p>必ず実行</p> |  <p>電源コードや電源プラグに異常がある場合は使用を中止し、修理を依頼すること
電源コードやプラグの摩耗、接触不良等の場合は本体を使用せず修理をご依頼ください。</p> <p>必ず実行</p> |
|  <p>本体を落下しないこと
本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。</p> <p>禁止</p> |  <p>長時間使用しない時や落雷の危険があるときは電源プラグを抜くこと
火災や感電、故障の原因になる場合があります。</p> <p>必ず実行</p> |
|  <p>電源コードを濡れた手でさわらないこと
感電の原因となる場合があります。</p> <p>禁止</p> |  <p>本体内部に液体や物をいれないこと
火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。</p> <p>禁止</p> |
|  <p>バッテリーを高温下にさらさないこと
極端に高い熱源や直射日光にさらすと、火災や故障の原因になる場合があります。</p> <p>禁止</p> |  <p>バッテリーを高温下にさらさないこと
極端に高い熱源や直射日光にさらすと、火災や故障の原因になる場合があります。</p> <p>禁止</p> |

**警告**

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



禁止

改造を行わないこと

決して製品内部を開いたり、ユニットパネルを動かしたり、その他マニュアルに記載されていない調整を行わないでください。これらの行為は感電やその他災害に繋がる可能性があります。また、あなたの製品にも損害を与える可能性があります。製品内部を開くと、保証対象外となりますのでご注意ください。



禁止

本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと

ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。



必ず実行

電源コードは必ずこの製品に付属のものを使うこと

適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。



禁止

本体内部に液体や物をいれないこと

火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。

**注意**

この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本体は安定した場所に設置すること

本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。



禁止

ボタンや入出力端子に無理な力を加えないこと

本体の故障やお使いになる方が怪我をする原因になります。



禁止

高温になる場所に設置しないこと

直射日光が当たる場所、熱を発するものの近くに置かないでください。製品の上にもろそくなど裸火を置かないでください。



必ず実行

スピーカーは定格範囲内で使用すること

定格範囲を超えるレベルや周波数を入力すると、スピーカーが故障する場合があります。特に歪にはご注意ください。

修理

- 日本仕様の Mackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。
- 本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容を確認してください。
- テクニカルサポートに電話、もしくは support_mackie@otk.co.jp にメールをし、「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、04-2944-3812 へ FAX してください。折り返し RA 番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付表を FAX で返送致します。RA 番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
- オーナーズマニュアルと電源コードは同梱しないでください。修理には必要ありません。
- 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
- 必ず、RA 番号が記載された修理受付表のコピーを同梱してください。また送り状の通信欄にも、RA 番号と商品名、製造番号を記載してください。RA 番号のない修理品は受付することができません。

保証

- 本機の保証はご購入後 1 年間となっております。
- 正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、予めご了承ください。
 - お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
 - お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
 - 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
 - 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
 - 正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- 日本国外でご使用中の故障、損害

すべてのサポート・修理に関する情報は下記 Mackie 日本語ホームページをご参照ください。

mackie-jp.com/support

サポートセンター

〒 359-0023 埼玉県所沢市東所沢 2-37-1

塚腰運送敷地内

☎ 04-2944-3811

📠 04-2944-3812

✉ support_mackie@otk.co.jp

営業日 月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

営業窓口

東京 東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1

☎ 03-3639-7800 (代表)

📠 03-3639-7801

大阪 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4

☎ 06-6152-7751

📠 06-6152-7752

名古屋 名古屋市東区泉 1-23-30

☎ 052-950-3324

📠 052-950-3325

広島 広島市中区富士見町 16-22-604

☎ 082-258-2916

📠 082-2582917

福岡 福岡市南区大橋 4-16-18-201

☎ 092-554-6066

📠 092-554-6064

仙台 宮城県名取市杜せきのした 2-2-16-101

☎ 022-797-5281

📠 022-797-5282

営業日 月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

ご質問は電子メールでも承ります。

✉ sales_mackie@otk.co.jp

Contents

特徴	5
はじめに	6
このマニュアルの使い方	6
クイックスタート	6
その他の注意	6
接続図 - FreePlay LIVE	7
FreePlay LIVE: リアパネルの機能	9
FreePlay Connect アプリ	9
1. 電源コネクタ	9
2. 電源スイッチ	9
3. XLR & TRS フォンコンボ入力端子	9
4. Bluetooth / AUX 入力	10
5. MON 出力	10
6. ポールマウント	10
FreePlay LIVE: トップパネルの機能	11
7. Bluetooth ボタン	11
8. チャンネル 1/ チャンネル 2 ボタン	11
9. レベル [+ / -] ボタン	11
10. メーター	11
11. RVB ボタン	11
12. EQ モード	12
ハンドル	12
スピーカーリンク	12
工場出荷時に戻す (メモリーリセット)	13
AC 電源	13
お手入れとメンテナンス	13
付録 A: サービスについて	14
付録 B: 技術情報	15
FreePlay LIVE 寸法	16
FreePlay LIVE ブロックダイアグラム	17

特徴

- パフォーマーの要求に応える高出力サウンド
 - 150W の高出力 6 インチウーファーとパワフルで広がりのあるサウンドを実現するデュアルツィーターを搭載
 - 最大 15 時間連続再生が可能な充電式リチウムイオンバッテリーを搭載*
 - ミュージシャン、パフォーマー、プレゼンター向け
 - ギター、マイク、キーボードなどを接続するための 2ch 1/4 インチ / XLR コンボ入力端子を搭載
 - 別のパワードスピーカーやミキサーにミックスを送ることができる 1/4 インチ TRS バランス出力端子を搭載
 - 1/8 インチ Aux 入力端子を搭載
 - 注意：マイクは必ず XLR3 ピン入力に接続してください。
 - ワイヤレス Bluetooth ストリーミング
 - お持ちの Bluetooth デバイスを FreePlay LIVE™ に接続することで、ライブ会場にいるような臨場感のあるサウンドを再生
 - ステージで引き立つデザイン
 - 耐久性の高いモールドエンクロージャーとコーティングを施した金属製グリルを採用
 - 緻密にチューンされたエンクロージャー
 - 低音とヘッドルームを強化することにより、大音量かつ歪みのない高音質なサウンドを実現
 - FreePlay Connect™ アプリ
 - 専用アプリを使用することで、レベルや EQ、リバーブ等のリモートコントロールが可能
 - 楽しみも 2 倍に
 - もう 1 台の FreePlay シリーズとリンクすることで、より大音量かつ高音質で再生することが可能。また別々で使用することでマルチルームリスニングも可能
 - 同梱アダプターで一般的な 5/8 インチ SHURE 規格のマイクスタンドへのマウントが可能
- * バッテリーの持ち時間は再生する音源やボリュームにより変わります。

はじめに

大きく重量があるスピーカーだと可搬性に欠け、かといって小さなスピーカーだとパフォーマンスに必要なパワーや音質、信頼性に欠ける。これらはライブミュージシャンやプレゼンターが頻繁に直面するポータブルライブスピーカーシステムの欠点です。

しかしもう心配する必要はありません。Mackie の新しい FreePlay LIVE™ は、音楽パフォーマンスやスピーチプレゼンテーションに必要なパワーを備え、軽量で高音質なソリューションを必要とする人に最適なパーソナル PA システムです。大容量の内蔵バッテリーにより、豊かでパワフルなサウンドを最大約 15 時間連続して再生することができます。また AC 電源を用いて駆動することも可能です。

FreePlay LIVE にはマイクやギター、キーボードなど、さまざまな機器をフレキシブルに接続することができます。また Bluetooth 対応のプレイヤーから音楽をワイヤレスでストリーミングすることもできます。さらに FreePlay Connect™ アプリを使用することで、レベルから EQ まであらゆる要素をコントロールでき、素晴らしいサウンドに上げることができます。またアプリによりその他の FreePlay シリーズとリンクし使用することができます。

さあ、カフェを盛り上げる準備はできていますか？ビーチでオープンジャムセッションを開催するのも良いですね。ビジネスにおいては営業チームにベストな音でプレゼンしましょう。どのような場所でも用途でも、FreePlay LIVE があればこれ以上サウンドに悩むことはなくなります。

このマニュアルの使い方

この後に続くクイックスタートガイドでは、本機を設定するための手順が説明されています。接続図ではよくあるセットアップを説明しています。



このアイコンはこの製品で特に重要、あるいは独自の情報を示す際に使われています。よく読み、覚えておくの良いでしょう。



このアイコンは機能に関する説明や実用上のヒントを示す際に使われています。知っておくと便利で価値のある情報が記載されています。



このアイコンはこの製品を使用する際の機能や TIPS を紹介する際に使われています。

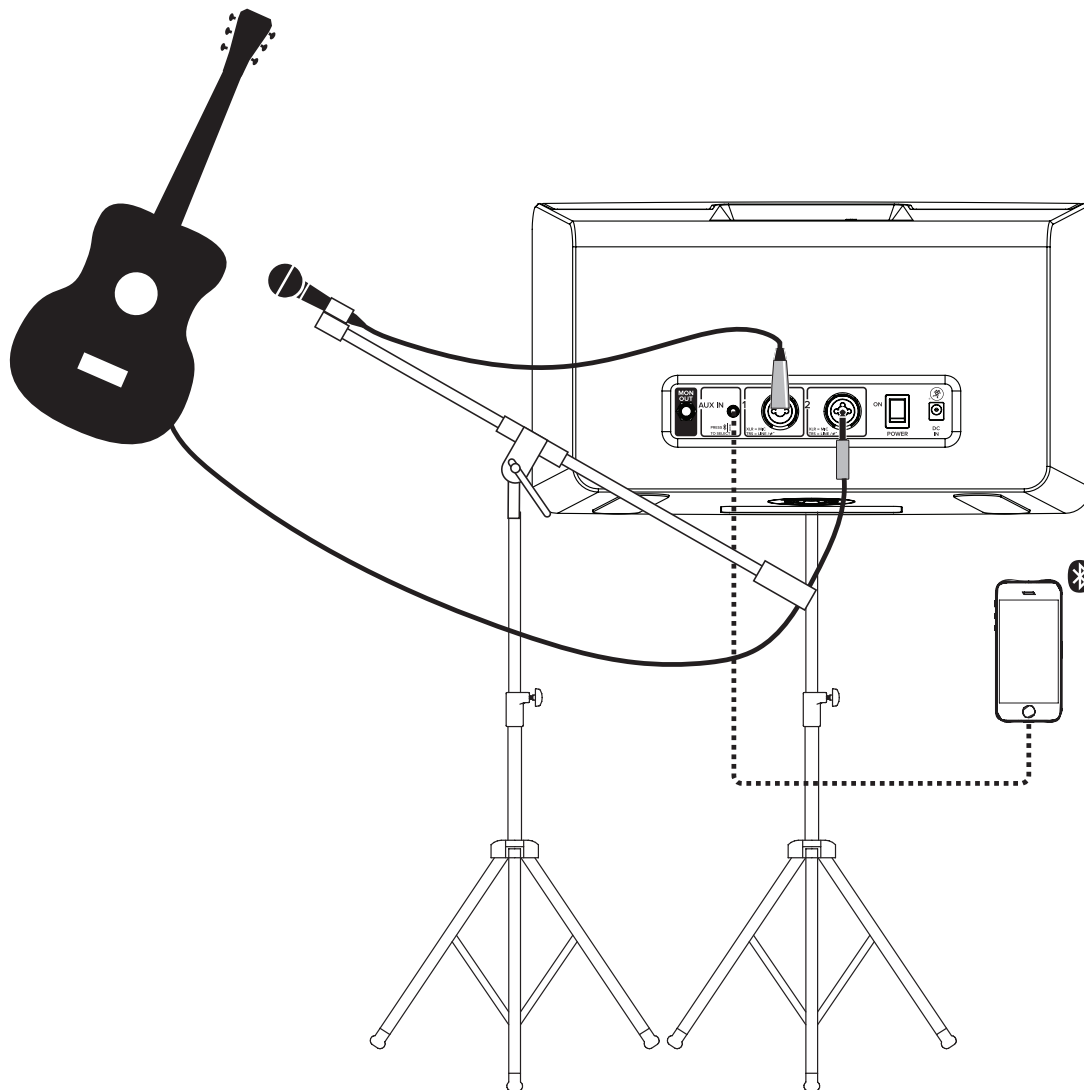
クイックスタート

以下の手順に従うことでスピーカーを素早く設定できます。

1. ケーブルを接続する際は全ての機器の電源スイッチをオフにしてください。
2. 下記のように機器を接続します。:
 - マイクを XLR3 ピンマイク入力端子へ接続してください。
 - ピックアップを取り付けたアコースティックギターなどのラインレベルの楽器は TRS フォンライン入力端子へ接続してください。
 - キーボード、ドラムマシン、MP3 プレイヤーなどのラインレベルソースは TRS フォンライン入力端子へ接続してください。
3. 電源アダプターのコネクターを FreePlay LIVE に接続してください。電源コードをアダプターに差し込み、コードのもう一方の端を電源コンセントに接続してください。
4. FreePlay LIVE の電源を入れてください。
5. Bluetooth を使用してお持ちのスマートフォンやタブレットをペアリングしてください。ペアリング方法については P.11 をご参照ください。
6. 入力のリボリュームは、通常使用する際と同じにしてください。
7. 快適なリスニングレベルになるまで、ゆっくりとメイン出力レベルをあげてください。

その他の注意

- 長時間、大音量で音楽を聴くと難聴の原因となる恐れがあります。P.2 の安全条項をよく読んでください。
- 梱装箱と同梱物は大切に保管してください。いつか必要になる時がくるかもしれません。子猫にとっては予想外に快適な遊び場になるかもしれません。その時は怒らないであげてくださいね。
- 保証書は大切に保管してください。



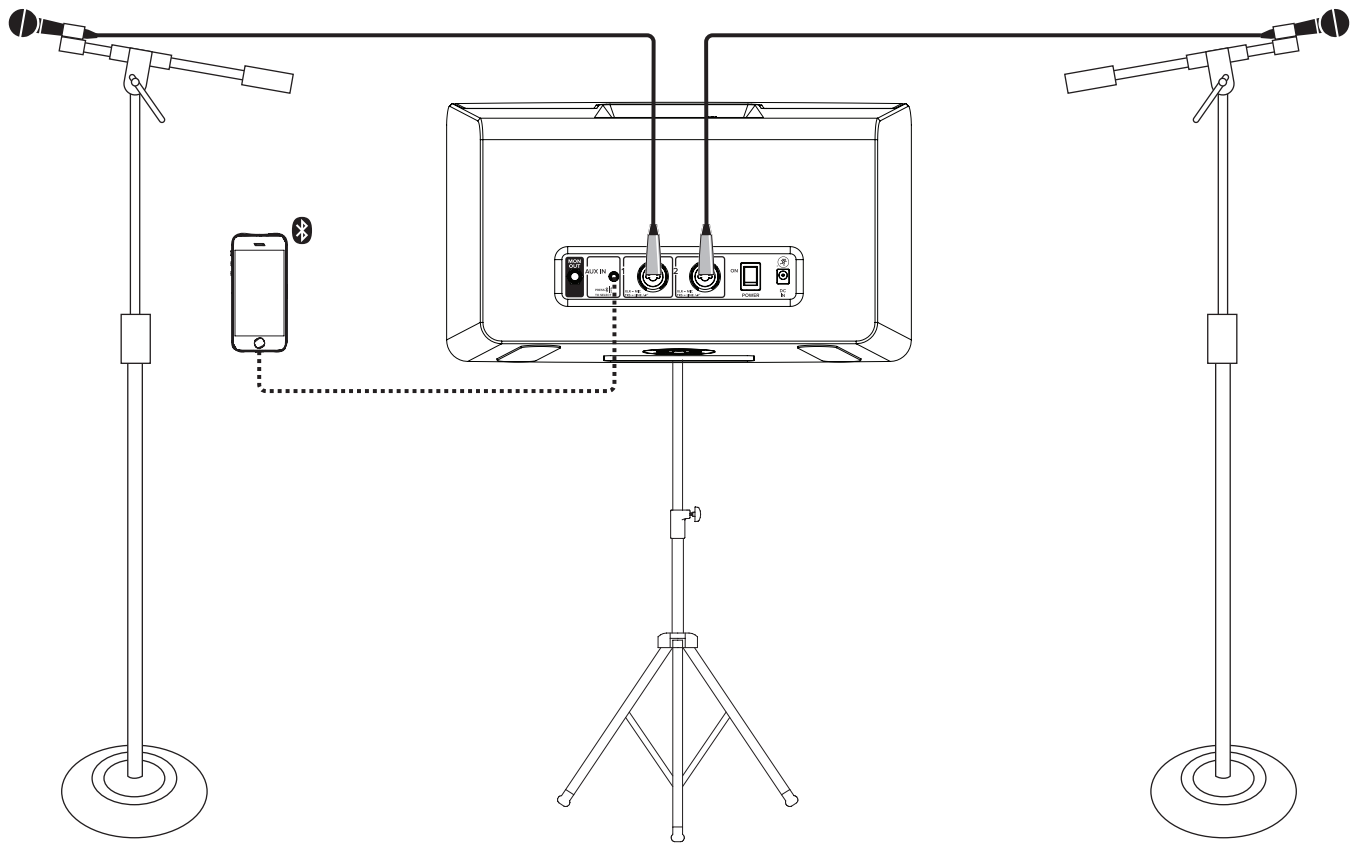
FreePlay LIVE は、シンガーソングライターが地元のホットスポットやカフェでライブを行う際の最適なツールです。

FreePlay LIVE と一緒にお気に入りのギターとマイク、ケーブルと電源コードを持参してください。もちろんスマートフォンも忘れないでくださいね。機材が揃ったら、あとはソーシャルメディアを使ってライブスケジュールを告知するだけです。Bluetooth（もしくは1/8 インチステレオミニ端子）を使ってスマートフォンを接続し、バックイングトラックを再生できます。

この接続例では、マイクをチャンネル 1 XLR3 ピン入力へ接続します。レベルは P.11 の手順に従って調整します。ギターをチャンネル 2 の TRS フォン入力へ直接接続します。マイクと同様の手順でギターのレベルも調整します。

出力に対しては環境に合わせて EQ モードを設定できます。EQ モードについて詳しくは P.12 をご覧ください。今回のセットアップでは、LIVE モードを使用するのがお薦めです。

接続図 - FreePlay LIVE



FreePlay LIVE は会議でのプレゼンテーションでの使用も活躍してくれます。会議の後はカラオケ大会で打ち上げですか？もちろん FreePlay LIVE は会議のセッティングのままで大丈夫ですよ。FreePlay LIVE を使ったカラオケ大会で日ごろの鬱憤を晴らしましょう。

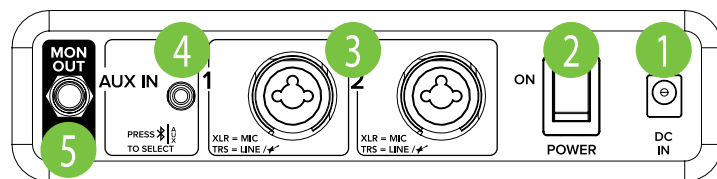
この接続例ではマイクをチャンネル 1 とチャンネル 2 の XLR3 ピン入力へ接続します。プレゼンとカラオケ用の音源が入ったスマートフォンを Bluetooth（もしくは 1/8 インチステレオミニ端子）に接続します。レベルは P.11 の手順に従って調整します。

出力に対しては環境に合わせて EQ モードを設定できます。EQ モードについて詳しくは P.12 をご覧ください。会議のプレゼンテーションで使用するときには MUSIC モード、打ち上げのカラオケ大会で使用するときには LIVE モードを使用するのがお勧めです。会議終了後に切り替えるのを忘れないように！

残念ながら FreePlay LIVE には「PPT」というボタンは実装されてません。会議のパワーポイント資料はご自身でご用意くださいね。プレゼンテーションを FreePlay LIVE で行った後は、打ち上げのカラオケ大会です。残念ながら FreePlay LIVE には「銀恋」というボタンも実装されてません。お手持ちのスマートフォンにお気に入りのデュエット曲をダウンロードしておいてくださいね。

Presentation / Karaoke Setup

FreePlay LIVE: リアパネルの機能



FreePlay Connect アプリ

FreePlay LIVE は、専用アプリ「FreePlay Connect」と連携して使用することができます。アプリを使うと、本体で設定できるもの以上の機能を発揮することができます。更に Bluetooth を介して接続することで、リモートでの操作を可能にします。FreePlay Connect を使うことで、電源のオン/オフと Bluetooth 機器のペアリング以外の全ての操作を行うことができます。

FreePlay Connect は直感的に操作が可能なアプリです。誰でも簡単に操作ができます。ご不明点は下記よりお問い合わせください。

mackie-jp.com/contact

1. 電源コネクタ

FreePlay LIVE は 100 VAC - 240 VAC まで対応できるユニバーサル AC 電源により駆動します。そのため変電スイッチなどはありません。理論的には世界中どこでも使用することができるこの電源アダプターを、私たちは「プラネットアース」と呼んでいます。これは従来の電源よりも電圧サグやスパイクの影響を受けにくく、加えて電磁気のアイソレーションも向上しているため、ノイズの影響も受けにくい仕様となっています。

電源アダプターのコネクタを FreePlay LIVE に接続してください。電源コードをアダプターに差し込み、コードのもう一方の端を電源コンセントに接続してください。



本機に同梱している電源アダプターは 100V 専用モデルです。日本国外での使用はできません。

2. 電源スイッチ

このスイッチを押しこむことで電源を入れます。上部を押すことで電源が入り、下部を押すことで電源を切ることができます。

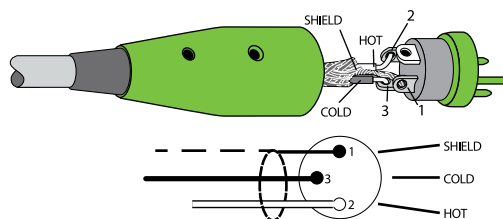
電源を入れると、トップパネルのメーターが 10 秒間点灯し、バッテリーレベルを示します。10 秒後、出力レベルがメーターに表示されます。

3. XLR & TRS フォンコンボ入力端子

これらの入力チャンネルには、XLR 端子を使いマイク信号をバランスで入力することができます。配線は以下のようになっています。これは AES(Audio Engineering Society) が定めたものです。

XLR バランス配線

- ピン 1 = シールド (グラウンド)
- ピン 2 = プラス (+ もしくはホット)
- ピン 3 = マイナス (- もしくはコールド)



この端子は XLR に加え、1/4 インチ TRS フォンにも対応するコンボ入力端子となっています。

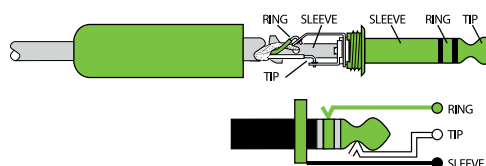
注意: マイクは必ず XLR3 ピン入力に接続してください。1/4 インチ TRS フォン入力は、マイク入力には対応していません。

加えて、両方のチャンネルは Hi-Z 接続にも対応しているため、ギターなどのハイインピーダンス楽器を DI ボックス無しで直接接続することができます。

バランスライン信号をこれらのチャンネルに入力する場合は、TRS フォンをご利用ください。TRS はチップ - リング - スリーブの略で、ステレオ 1/4 インチのプラグの 3 つの接点を表しています。ケーブルは下図のように配線してください。

1/4 インチ TRS バランス MONO 配線

- スリーブ = シールド
- チップ = 陽極 (+ またはホット)
- リング = 陰極 (- またはコールド)

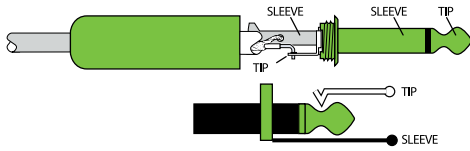


FreePlay LIVE: リアパネルの機能

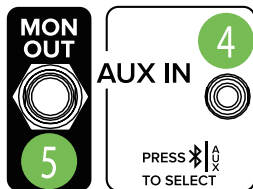
アンバランスラインの信号を入力端子に接続する場合は、1/4 インチモノラルフォン (TS) を使用します。配線は以下の通りです。

1/4 インチ TS アンバランス MONO 配線:

- スリーブ = シールド
- チップ = 陽極 (+ またはホット)



決してアンプからの出力を FreePlay の入力端子に接続しないでください。入力回路の破損の原因となる場合があります。



4. Bluetooth / AUX 入力

FreePlay LIVE は 1/8 インチステレオミニプラグ型の外部入力端子 (Bluetooth / Aux) を装備しています。スマートフォンや MP3 プレイヤーなどを接続して音楽をストリーミング再生できます。FreePlay LIVE トップパネル上の + および - ボタンを使用してレベルを調整することができます。または FreePlay Connect から調整することもできます。



静電気放電 (ESD) が発生すると、機器の誤動作の引き金となり Bluetooth 接続が解除される場合があります。その場合は手動で再接続してください。



決してアンプからの出力を FreePlay LIVE の入力端子に接続しないでください。入力回路の破損の原因となる場合があります。



1/8 インチステレオミニプラグと Bluetooth を同時に接続して使用することはできません。Aux 端子に物理的にケーブルを差し込むと、Bluetooth 接続に対して有線接続が優先されます。例えばスマートフォンを Bluetooth で接続し音楽を再生している際に、MP3 プレイヤーを Aux 端子に有線で接続すると、MP3 プレイヤーからの音源が優先されます。

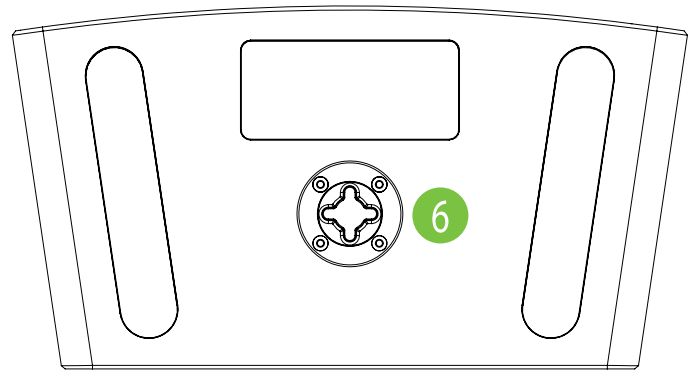
5. MON 出力

このバランス 1/4 インチフォン端子は、パワードスピーカーやサブウーファーなどに向けたモノラルのラインレベル信号を出力します。この信号は入力端子に接続されたものと全く同じものとなります。

この信号はプリメインフェーダーとなっており、FreePlay LIVE 本体 (もしくは FreePlay Connect) のメインボリューム調整の影響は受けません。



この信号はメイン出力レベルや EQ モードなどの影響も受けません。



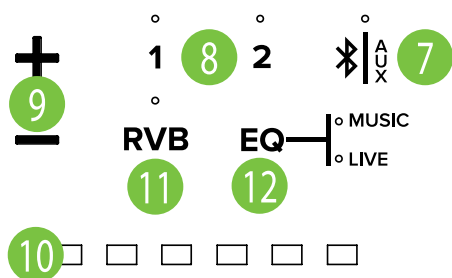
6. ポールマウント

FreePlay LIVE の底部には、マイクスタンドに取り付けることのできる 5/8 インチ SHURE 規格のマウントホールが装備されています。音楽を聴きながら BBQ を楽しむときにはうってつけですね。ご近所さんを招待するのを忘れずに！



FreePlay LIVE をマイクスタンドに取り付けるには、同梱されているスタンドアダプターを使用してください。5/8 インチ SHURE 規格以外のマイクスタンドに取り付ける場合は、別途マイクスタンド変換ネジをご用意ください。

FreePlay LIVE: トップパネルの機能



7. Bluetooth ボタン

ペアリング - Bluetooth ボタンを長押ししてペアリングを開始します。ボタンを長押しすると、ボタン上部の LED が白色に点滅します。これは FreePlay LIVE がペアリングモードになっていることを示しています。

FreePlay LIVE がペアリングモードに入ると、LED の点滅と同時に Bluetooth デバイスのスキャンを開始します。お持ちのデバイスの「使用可能なデバイス」リスト上に、FreePlay が表示されます。タッチし選択してください。FreePlay を選択後、お持ちのデバイス上で問題なくペアリングができたかどうか確認してください。



静電気放電 (ESD) が発生すると、機器の誤動作の引き金となり Bluetooth 接続が解除される場合があります。その場合は手で再接続してください。

レベル - Bluetooth / AUX ボタンを押してください。ボタンを押すと、ボタン上部の LED が白色に点灯します。その後、本体の +/- ボタンで Bluetooth/AUX 入力のレベルを調整することができます。入力レベルは緑色の LED で表されます。5 秒間操作がないと、Bluetooth ボタン上部の LED が消え、メイン出力レベルの操作 (デフォルト状態) に戻ります。

8. チャンネル 1 / チャンネル 2 ボタン

チャンネル 1 もしくはチャンネル 2 ボタンを押してください。ボタンを押すと、ボタン上部の LED が白色に点灯します。チャンネルが選択されたら、本体の +/- ボタンでチャンネル 1 もしくは 2 の入力レベルを調整することができます。入力レベルは緑色の LED で表されます。5 秒間操作がないと、ボタン上部の LED が消え、メイン出力レベルの操作 (デフォルト状態) に戻ります。



チャンネル 1 とチャンネル 2 を素早く同時押しすると、入力レベルメーターにバッテリーの残量が表示されます。



チャンネル 1 とチャンネル 2 を同時に 3 秒間長押しすると、FreePlay を工場出荷状態に戻すことができます。この機能は全ての設定を削除しますのでご注意ください。また、このボタンを押すことで過去にペアリングされたデバイスの情報が FreePlay から削除されます。この状態から回復するには、お使いのデバイスの Bluetooth 設定画面で「デバイスの登録を解除」して、再度ペアリングを行ってください。

9. レベル [+ / -] ボタン

+ ボタンを押すことで通常攻撃、連続攻撃を繰り返します。また敵からダメージを受ける毎に技ゲージが上昇し、ゲージが MAX になった時、- ボタンを押すことで必殺技が発動します。技ゲージはライフが少ない時ほど上昇率が上がります。

さあいつもの冗談はさておき、本当のことをお教えします。+/- ボタンは選択した入力チャンネルのレベルもしくは全体の出力レベルを調節することができます。+ を押すと音量が上がり、- を押すと音量が下がります。

デフォルト状態ではメイン出力レベルの調整となります。他のチャンネルを選択した時は 5 秒以内に操作を開始してください。5 秒間非アクティブ状態が続くと、選択しているチャンネルはデフォルトの出力レベルの調整に戻ります。

10. メーター

この 6 セグメントの LED メーターは、入出力信号レベルおよびバッテリーの残量を表します。

入力レベルは、それぞれのボタンでチャンネルを選択したあと、+/- ボタンを使って簡単に調整できます。

5 秒間操作をしないと、メーターにはメイン出力レベルが表示されます。

11. RVB ボタン

信号にリバーブをかけたい? そんなことは簡単です! RVB ボタンを押すだけで、リバーブのオン/オフを選択することができます。リバーブが有効になっている場合、ボタン上部の LED が白色に点灯します。

リバーブは、現在 FreePlay Connect にてセーブされているリバーブセッティングが反映されます。FreePlay LIVE 本体のみでは、各入力チャンネルのリバーブのレベル設定を行うことができません。FreePlay Connect アプリで設定を行ってください。この RVB ボタンはリバーブのオン/オフのみの切り替えボタンです。

FreePlay LIVE: トップパネルの機能

12. EQ モード

FreePlay LIVE の EQ モードを変更して、使用方法に応じた最適な設定にすることができます。

FreePlay LIVE には、Music と Live の 2 つのプリセットモードがあります。使用したいモードが選択されるまで、EQ ボタンを繰り返し押しします。選択されたボタンは白色に点灯します。

Music EQ モード - 低域と高域を強調する、音楽再生に適したモードです。

Live EQ モード - 不要な低域を取り除き、中高域にきらびやかさを加えます。



FreePlay LIVE は上記の EQ モードに加え、FreePlay Connect アプリを介した 3 バンド EQ を各チャンネルに適用することができます。FreePlay LIVE 本体のみでは、各入力チャンネルの 3 バンド EQ を設定することはできません。FreePlay Connect アプリで設定を行ってください。

ハンドル

スピーカーには運搬用のハンドルが必須です。FreePlay LIVE のトップパネルにはハンドルが装備されていますので、持ち運びも簡単です。本体は軽いので、誰にでも簡単に持ち運びができます。

スピーカーリンク

FreePlay には、2 台目の FreePlay とリンクできる素晴らしい機能が搭載されています。これにより、同じ場所に「ステレオペア」として置くことも、来客用に屋外や別の部屋に設置することもできます (別名「ゾーンモード」)。この機能を使うと Mackie FreePlay シリーズのどのモデルともリンクさせることができます。ではリンクする方法をみてみましょう。

まず、Bluetooth デバイスが 1 台目の FreePlay LIVE に Bluetooth 接続されていることを確認してください。

次に、1 台目の FreePlay LIVE のトップパネル上 Bluetooth ボタンと + ボタンを、チャンネル 1 ボタンの上部 LED が白色に点灯し、Bluetooth ボタンの上部 LED が点滅するまで長押ししてください。これにより、他の FreePlay とのリンクする準備ができました。

別の FreePlay LIVE とリンクする：

2 台目の Freeplay LIVE の Bluetooth ボタンと - ボタンを長押しします。マスターとなる 1 台目の FreePlay LIVE の Bluetooth ボタン上部 LED とチャンネル 1 上部 LED が白色に点灯し、スレーブとなる 2 台目の FreePlay LIVE の Bluetooth ボタン上部 LED とチャンネル 2 上部 LED が白色に点灯したら、リンク成功です。

FreePlay GO もしくは FreePlay HOME とリンクする：

FreePlay GO もしくは HOME の LED が点灯するまで、リンクボタンを長押ししてください。



リンクを行っている際に信号が途切れることがあります。これは、ハードウェアがリンク処理を完了する際の正常な動作です。

工場出荷時に戻す（メモリーリセット）

FreePlay Connect アプリを介して設定を行った場合、FreePlay を工場出荷時の状態に戻す必要が出てくるかと思えます。

実行する前に、レベル設定、EQ 設定などの全ての要素が消去されることを念頭に置いてください。リセットする前に、アンプやパワードスピーカー等の電源が切れているか必ず確認を行ってください。

チャンネル 1、チャンネル 2 ボタンを同時に長押しすることで、FreePlay LIVE を工場出荷時の状態に戻すことができます。



リセットを実施すると、前回ペアリングした機器の情報もメモリから完全に消去されます。問題を回避するには、このデバイスの登録の解除をタップし、再度ペアリングを行ってください。

AC 電源

FreePlay を接続するコンセントが、ご使用のモデルに適した電圧を提供することを確認してください。必要電圧を少し下回ってもスピーカーは作動し続けますが、フルパワーを発揮することはできません。

接続された全ての機器に対して必要な電力を確保できているか確認してください。

アンプは AC ラインに高い電力を要求するので、堅実で強力な AC 電源を供給することをお勧めします。供給される電力が多い程スピーカーの音量は大きくなり、ピーク出力が増大してクリーンかつ迫力のあるベースサウンドを得ることができます。ベースサウンドが迫りに欠ける場合、原因の多くはアンプに供給される電力不足が考えられます。

お手入れとメンテナンス

FreePlay LIVE は、下記のガイドラインに従って使用されている限り、長年にわたって信頼性の高いサービスを提供します。

- 本体を霧にさらさないでください。野外で使用する場合は、雨が降らないようカバーをしてください。
- 極端に温度が低い場所（氷点下）に置かないでください。気温が低い場所で使用しなければならない場合は、高出力で動作させる前に 15 分ほど低いレベルの信号を送って、ボイスコイルを温めてください。
- キャビネットのお手入れには、乾いた清潔な布をお使いください。また、電源が確実に切れていることを確かめてください。開口部から霧を内部に侵入させないようにしてください。

付録 A: サービスについて

スピーカーに問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認ください。弊社のウェブサイトのサポートセクションをご覧ください。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求めの販売代理店まで修理をご依頼ください。

トラブルシューティング

電源が入らない

- 私たちの大好きな質問です。電源アダプターは接続されていますか？同梱されている電源アダプターが FreePlay LIVE の電源ソケットに正しく接続されていることを確認してください。
- 次にお気に入りの質問です：電源スイッチをオンにしましたか？そうでなければ、スイッチをオンにしてください。
- トップパネルの LED メーターは点灯していますか？
- バッテリーは充電されていますか？

音が出ない

- 入力レベルを絞りにきっていませんか？システム内の全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。レベルメーターを見て信号が入力されているか確認してください。
- シグナルソースは機能していますか？ケーブルに問題がないこと、両端でしっかり接続されていることを確認してください。接続している機器のボリュームコントロールが、このスピーカーの入力をドライブするのに十分な程度上がっていることを確認してください。
- 接続している機器の電源がオンになっていることと、ミュートされていないかということを確認してください。このような状況の場合、問題の機器を外す前に必ず音量 / ゲインを下げてください。

音が良くない

- 音量が大きくて歪んでいますか？信号経路で過大入力となっている原因がないかを確認してください。システム内の全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。
- 入力コネクタが端子に最後までしっかり挿し込まれていますか？全ての接続に問題がないことを確認してください。

ノイズが出る

- スピーカーに接続している全ての機器の出音に問題がないことを確認してください。
- 信号ケーブルを電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生するものの近くに設置しないでください。
- スピーカーと同じ電源回路に、照明用のディマーや SCR ベースの機器を接続していませんか？ AC 電源フィルターを使うか、スピーカーを別の AC 電源回路に接続してください。

ハム

- メイン入力端子に接続したケーブルを抜いてください。これでノイズが消えた場合、FreePlay LIVE に問題があるのではなく、グラウンドループによるノイズが発生しているのかもしれません。以下のトラブルシューティングを試してみてください。
- ノイズを最大限除去するため、システム全体をバランスで接続してください。
- 可能な場合は音響機器の電源コードを全てコモングラウンドを共有するコンセントに接続してください。コンセントとコモングラウンドの距離は可能な限り短くしてください。

Bluetooth について

- 下記よりお問い合わせください。

mackie-jp.com/contact

ご不明な点は…

- mackie-jp.com にアクセスしてサポートの項目をご覧ください。
- support_mackie@otk.co.jp までメールをお寄せください。
- テクニカルサポートセンターにお電話ください。
- 日本語：04-2944-3811（月～金曜、9am～6pm）
- 英語：1-800-898-3211（月～金曜、営業時間 PST）

付録 B: 技術情報

FreePlay LIVE 仕様書

音響特性

周波数特性 (-10 dB)	60 Hz – 20 kHz
周波数特性 (-3 dB)	77 Hz – 20 kHz
最大ピーク SPL	115 dB
クロスオーバーポイント	3.0 kHz
指向性	90°

EQ

ローシェルビング	± 10 dB @ 250 Hz
ミッドピーキング	± 10 dB @ 1.0 kHz
ハイシェルビング	± 10 dB @ 2.0 kHz
増加幅	± 1 dB

低域ユニット

ドライバー直径	152 mm
ボイスコイル直径	25 mm
コーン材質	特殊加工紙
マグネット材質	セラミック

高域ユニット

ボイスコイル直径	25 mm
ホーン口径	25 mm
ダイヤフラム材質	ポリエステル (PEN)
マグネット材質	セラミック

パワーアンプ

定格出力	150W PEAK 75W RMS
THD	<1%
冷却	対流式
動作方式	クラス D

システムプロセッシング

チャンネル EQ	3 バンド
メイン EQ	2 ボイシングモード
FX	リバーブ

入出力

XLR	10 k Ω バランス
1/4 インチ TRS	100 k Ω バランス
1/4 インチ TS	400 k Ω アンバランス
1/8 インチステレオミニ	10 k Ω ステレオ
モニター出力	1/4 インチ TRS バランス

電源

電源要求	100-240VAC, 50-60 Hz, 1.5 Amps, 19 VDC, 3.42 Amps
動作温度 (許容室内温度範囲)	0 ~ 40°C

保護機能

リミッター / 保護	入力 / システムリミッター アンプ保護
------------	-------------------------

バッテリー

バッテリータイプ	リチウムイオン
容量	2600 mAh / 37.44 Wh
公称電圧	14.4 V DC
動作温度範囲	-20~60°C
充電時温度範囲	0~40°C

Bluetooth

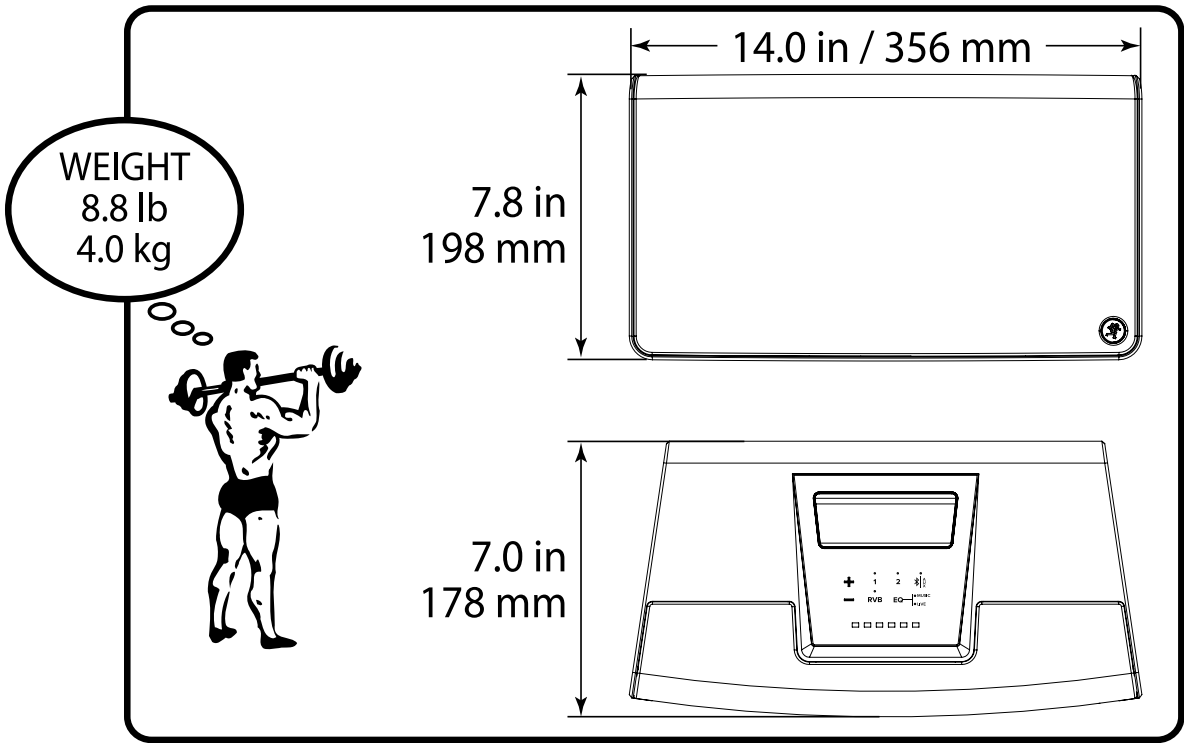
Bluetooth プロトコル	4.2
Bluetooth 機能	オーディオストリーミング UI コントロール

寸法 / 重量

高さ	198 mm
幅	356 mm
奥行き	178 mm
重量	4.0 kg

LOUD Audio 社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観および仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running Man」は LOUD Audio 社の登録商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。



FreePlay LIVE ブロックダイアグラム

